

海上自衛隊幹部学校副校長 山本

皆様、おはようございます。本日は連休の中日にもかかわらず、朝早くからお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、当シンポジウムの事務局長を務めております、海上自衛隊幹部学校副校長の山本でございます。

本日、ここに平成24年度自衛隊観艦式付帯広報行事として、海洋安全保障シンポジウムを開催することができましたことは、ひとえに日頃からここにお集まりの皆様を始め、国民の皆様方の、私達、防衛省、自衛隊に対する多大なご理解とご支援の賜物であり、この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。

この海洋安全保障シンポジウムは、防衛省と海洋政策研究財団との共催で、内外の有識者及び海事関係機関関係者等による議論を通じて、グローバルな海洋安全保障の重要性について考えるものであり、先ほど申し上げましたとおり、3年に1度、開催される観艦式の付帯行事として、2009年に初めて開催いたしました。従いまして、今回、第2回目を数えることとなります。

昨今のアジア太平洋地域、特に東シナ海や南シナ海には、皆様もよくご存じのとおり、様々な問題が顕在化しております。我が国は平成22年に策定された防衛大綱において、各種事態に迅速、かつ柔軟に対応するべく、これまでの基盤的防衛力から、動的防衛力への進化を図り、平時から有事にかけてのあらゆる事態に迅速、かつ柔軟に対応できる体制の構築を目指し、防衛力整備を行っております。

また、今年は海上自衛隊創設60周年の節目にあたります。従って、本シンポジウムでは、我が国のこれまでの取り組みについて、また近年、重要性を増す海洋にかかわる安全保障問題について皆様にご理解いただくとともに、海上自衛隊の海洋安全保障上の取り組みを、60年の歴史とともに知っていただきたいと考えております。

ここで、本日の司会及び討論者の方々をご紹介します。

初めに、本シンポジウムの司会を担当していただきます、海洋政策研究財団特別顧問の秋山昌廣様。続きまして、慶応義塾常任理事、阿川尚之様。日本水難救済会理事長、向田昌幸様。日本船主協会海務部長、保坂均様。そして、平和・安全保障研究所理事長、西原正様。NTT データ特別参与、古庄幸一様。海洋政策研究財団主任研究員、秋元一峰様。最後に、本日、基調講演をいたします、海上幕僚幹部防衛部長、山下万喜海将補です。

それでは、早速ですが、司会の秋山特別顧問にマイクをお渡しすることといたします。秋山顧問、よろしくお願いいたします。